



コミュニケーションに迷うならば 手に取ってほしい1冊

評者 竹林 崇 大阪公立大教授・作業療法学

医療において、「コミュニケーション」は基盤となる知識および技術である。どれだけ確実性の高い医療技術があったとしても、それを施術したあとのサポートを行う医療従事者への納得と信頼を得られなければ、対象者はその選択をしないかもしれない。仮に選択しても、医療従事者への不信は、対象者の心身の予後を悪化させる可能性もある。これらの観点から、医療者がコミュニケーションを学ぶことは、エビデンスや知識・技術を学ぶことと同等に、非常に重要なものであると考えている。

しかしながら、医療コミュニケーションについては、医療者の養成校などにおいても特化した授業が少なく、また経験的に実施してきた先人も多いため、エビデンスを基盤としたコミュニケーション技術に対する教育は未だに確立されていない。一方、情報化の時代がさらに加速する昨今、医療事故やミスに関する報道が一気に加熱することで、医療に対する不信感が以前に比べて膨らんだという社会的背景もあり、コミュニケーションや接遇の技術の必要性がよりいっそう重視されている。

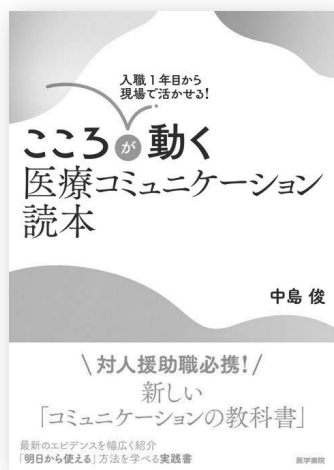
エビデンスを基盤に系統立てて論述

そうした背景のなか、医療者に対して「コミュニケーションとは何なのか?」「今自分がとっているコミュニケーションの問題点はどこにあるのか?」「それらを改善するためには何をすべきか?」を、過去の豊富な研究を基盤にわかりやすく丁寧に解説したのが本書である。

本書の素晴らしいところは、先行研究で調査された「エビデンス」を基盤に、読者の現在のコミュニケーションを振り返らせて、その問題を認めたくて、さらに改善するための方法が論理的に示されている点である。さらに、学術用語だけでは理解困難なニュアンスについては、いくつものシチュエーションと会話という Case を通して、具体的にどういった発言がどのような問題をはらみ、改善の余地があるかなどをわかりやすく解説している点も、理解を促す役割を果たしている。

卒前・卒後のコミュニケーションを見直す際に、これほど系統立てて、論理的にコミュニケーションについて論述された書籍は少ないと思われる。学生・新人からベテランまで、自身のコミュニケーションに迷いがある方は手に取ってほしい1冊である。

G



入職 1年目から現場で活かせる!

こころが動く 医療コミュニケーション 読本

中島 俊=著

定価: 2,420 円(本体 2,200 円+税 10%)
A5・152 頁/医学書院/2023
[ISBN978-4-260-05282-5]